

事例発表Ⅱ 議事録

(株)大成建設 国際事業本部 管理部 課長 大島弘氏

「アジアにおける CSR の現場から ～リスクとその対処法」

ベトナムにおける HIV/AIDS の概況

大成建設は、ベトナムでのカントー橋の建設において、HIV/AIDS 感染による労働者のリスクを低減させるため、CARE と協働で感染防止事業を展開している。

ベトナムにおける HIV/AIDS 蔓延の主な要因は、①政府機関内での感染対策の不備、②出稼ぎ労働など移動の増加、③収入獲得手段としての性産業従事、④麻薬である。感染は拡大の一途をたどり、2005 年には推定 26 万人の感染者が報告され、現在一日に 100 人が HIV/AIDS に感染していると言われている。

HIV/AIDS が企業に与えるリスクおよび感染対策を行う動機

企業が被るリスクの主なものは、①労働生産性の低下、②対策費や治療費などコストの増大、③企業イメージ低下による地域における需要の減少などである。これらにより、企業利益が減少するだけでなく、地域経済・社会に大きな打撃を与える。

企業の社会的責任(CSR)を果たし、従業員や顧客の確保、市場の維持、労働環境や人権、環境への配慮を求める消費者に応えるため、企業は HIV/AIDS 感染防止に取り組む。

カントー橋建設にかかる HIV/AIDS 等感染防止事業

本事業は、カントー橋建設に関わる移動・出稼ぎ労働者やコミュニティの人々の HIV/AIDS 等の感染リスクの軽減を目的に、建設を受注した日本企業、CARE、ベトナム政府との協力のもとで実施されている。その主な活動は、①企業の健康管理者やクリニックの能力向上、②感染リスクの高い地区における情報提供・普及活動、③情報交換を目的としたコミュニティとの連携構築、④コンドームの配布と使用率の向上である。

これまでには、受注企業、サブコントラクター、エンジニア、ローカルパートナー、CARE などから成る Programme steering committee (プログラム立案)、Programme working group (プログラム実施)、Peer educators (人々への指導) が組織され、ポスター、ニュースレター、トレーニングキット、イベントなどを通しての啓もう活動が行われてきた。

国際 NGO、CARE とパートナーシップを組む理由

企業としてのリスク回避に向けて、「専門的パートナー」との共同が必要となる。CARE を選んだ主な理由としては、①国際 NGO としての信頼性と専門性、②HIV/AIDS 分野における外務省、JICA、JBIC からの委託調査実績、③ケア・インターナショナル ベトナムの HIV/AIDS に関する実績、専門性、現地ネットワーク、④日本国内に事務所を有する国際 NGO (コミュニケーション)、の 4 点である。

今後の展開

自社の強みを見極める一方、弱みを専門的パートナーとの協働により補完することで、戦略的な取り組みが可能となる。また本感染防止事業をモデルケースとして、今後の大規模インフラプロジェクトで活用するなど、企業の社会的責任を追及していく。

時代の変化への対応能力が企業にとっての必須条件である。現在建設会社には、企業と地域のつながりが求められている。本感染防止事業は、交通インフラ整備と HIV/AIDS の撲滅という地域の二つのニーズを満たすと同時に、「人が生き生きとする環境を創造する」、「地図に残る仕事」という大成建設の経営理念にも合致している。

以上